

## 令和5年度秋田県環境教育等推進協議会 議事概要

### 1 日時

令和5年10月10日（火） 午後1時30分～午後3時

### 2 場所

秋田県議会棟2階 特別会議室

### 3 出席者

○委員（敬称略）

白畑展子、菊地洋文、成田司、渡辺智一、木口倫、八百屋信一、小笠原正剛、福岡真理子、伊藤睦子、古井正隆

以上10名

○事務局

温暖化対策課長 田口好信 ほか4名

### 4 議事

- (1) 座長選出
- (2) 令和4年度及び令和5年度環境教育・環境学習に関わる事業
- (3) 環境教育・環境学習関連の啓発動画等について
- (4) 環境教育等に係る国の動向
- (5) その他

### 5 質疑

- (1) 座長選出

木口委員が座長に選出

- (2) 令和4年度及び令和5年度環境教育・環境学習に関わる事業 事務局から説明

○木口座長

CO<sub>2</sub>削減に関するアイデア実践コンテスト（以下「ECOコン」）はこれまでの取組を更に一歩進め、活動の実質化に向けた令和5年度の新規事業とのことだが、小笠原委員が関わってきているので発言をお願いしたい。

○小笠原委員

秋田大学工学部の立場でも発言する。本事業は25歳以下の若い世代の学習を促し、様々な取組をフォローすることが背景にあると理解している。秋田の大学生が思い描いていることをアイデアコンテストとして提案し、現時点で審査され選ばれたという状

況だと思ふ。

この取組にかかわらず、秋田大学の環境活動サークルの顧問として、学内での取組や学外と連携した取組をしたいという声を耳にする。この3年間は新型コロナウイルス感染症の影響で難しいこともあったが、昨年度から様々なアイデアを出していた学生が今年応募したと聞いている。

今、学生はアイデアを調整し、助言を受けながら考えているところだが、10月に環境あきた県民フォーラム事務局と情報交換をする機会があり、学生と社会との接点を生み出すきっかけになっていると思う。

学生がしたいことを実現するために、これから計画し、可能な部分と少し難しい部分とを相談しながらやっていきたい。

この事業はすばらしい取組だが、県のサポートがないと少し厳しく、最後の発表審査についても様々なチャンスを生み出していると感じている。

質問として、環境教育支援校は公募なのか、県から指名するような側面が強いのかを教えてください。

#### ○事務局

環境教育支援校は、県から県内の学校に周知し、公募により学校を決定、その学校に資材を提供している。

#### ○小笠原委員

令和4年度の実績は10校のうち新規応募が8、その以前も新規応募が多いように見受けられる。こういった事業としては新規の応募が多くあると感じる。逆に継続校はこの支援で受けた環境教育資機材が残り、新しい学校は新たに先生が考えていくと思う。

対象が小学校から特別支援学校まで幅広いが、他校で実施したことについての情報共有の機会はあるか。

#### ○事務局

環境教育支援校の支援要件として、こどもエコクラブに登録する必要がある。こどもエコクラブは年度末に活動報告集を作成し、こどもエコクラブや小中学校に配布しており、取組については報告集の配布により共有を図っている。

#### ○小笠原委員

共有していくことは大事だと思う。スーパーサイエンスハイスクールでも、指定校同士やこれから指定を目指す高校が交流することがあり、つながりを生み出すという意味では良い取組だと思う。

#### ○木口座長

ECOコンについて、初めての試みで対象が県内の学生等だが、高校などには周知されたか。

#### ○事務局

今回、対象は県内の大学や専門学校等とし、高校は対象にしていない。座長からの指

揃も加え、来年度からは高校も対象にできないか検討している。

○木口座長

その点で成田委員にお伺いしたい。

高校では探求学習という取組をされているが、それと関連させ、実質的にこういったコンテストを実践することは可能か。今の探究活動の状況も併せて教えていただきたい。

○成田委員

学校現場を考えると、生物・化学に関わる部活動はないが、県内では活発な活動をしているクラブはある。主に理科教員がクラブ指導をしているが、小中高の理科研究発表大会などでの取組が活発で、チャンスがあれば研究がもっと活発になるのではないだろうか。

○木口座長

高校でも、そういう場があり、更に発展できるならば、是非、来年度は検討いただき進めていただきたい。

○事務局

どういった形で県が周知していけば、手を挙げていただけるかアドバイスをいただければありがたい。

○成田委員

研究発表活動は高文連の管轄になり、私たちとは別の部会となる。高文連にお問い合わせいただければ、高文連事務局から周知されると思う。

○木口座長

コンピューターの整備状況で秋田県が 69.3 パーセントと低いが、大型提示装置というのは大型ディスプレイのことか。

○事務局

そのとおり。

(3) 環境教育・環境学習関連の啓発動画等について 事務局から説明

○菊地委員

小学校低学年が分かりやすい動画を作成していただいていると感じる。ただし、小学1年生と2年生では漢字等が分からないものも多く、動画でも「自動車」は1年生では「車」という言い方になってくるので、言葉の使い方をもう少し簡単にさせていただくと、1年生でも見るができると思う。キャラクター等については、子どもの目を引く工夫をされており喜ぶと思う。

最初にごみ拾いの動画があったが、動画で今こんな取組をしているところをもう少し長く扱っていただくと、「これは何をしているか分かる?」といった最初の授業での導入にもでき、「こういう活動は大変だけれども。これも大事だよ。じゃあ君たちでできることは何だろう?」という話にして授業中に取り組めるため、そういう工夫もしていた

できればありがたい。

○事務局

今後、動画を作るときには、例えば、何年生を対象とするといったところをご相談させていただきながら作る工夫をしていきたい。

○木口座長

小学生より更に上や下の年代を対象にした動画も重要と思う。

その点を白畑委員に伺うが、保育所などでは祖父母と一緒に何かするなど、子どもができる活動はあるものか。

○白畑委員

保育所等でも食べ物を大事にしようと考えていると思う。親子又は祖父母等と一緒に日々の生活の中から考えるきっかけがあればよいと思う。動画も大人と見ることができればよい。合わせて絵本等も活用したい。

○木口座長

ICTとは言いつつも、保育所などでは運用するのは厳しい印象か。

○白畑委員

先ほど話題になった、言葉づかいの難しさからどのように取り入れていくか考えていく必要があると感じた。

○木口座長

大人が見ても分かりやすくできていると思うが、生涯学習ではどのような動画であれば活用できるのか、それとも大人向けにしたものが必要か。

○渡辺委員

生涯学習と考えたとき、例えばこのような動画を各市町村の公民館での環境に関する講座などで視聴してほしいという周知も効果的ではないか。周知する場合は、見ていただく機会を作るのも非常に大事だと思った。

事業にある美しい秋田の海での環境体験学習ツアーなどの体験ツアーを、例えば少年自然の家と共催し、親も子も巻き込みながら実施することで、相乗効果が出るのではないか。

○事務局

美しい秋田の海での環境体験学習ツアーは引き続き行っていきたいので、ご意見を参考に来年度事業を詰めていきたい。

○木口座長

周知が非常に重要だと思うが、今の動画はどれぐらいの再生数か。

○事務局

今の動画が7月末時点で14,243回、もう1つ別の動画は39,158回のYouTubeでの再生回数である。その他に、にぎわい交流館AUの大型スクリーンに、夏の間2か月間ほど動画を流している。

○木口座長

周知を頑張っていたきたい。

(4) 環境教育等に係る国の動向 事務局から説明

○木口座長

国の環境教育等推進専門家会議で、東北地方 ESD 活動支援センターから福岡委員の関係する話題が提供されているので、ご意見等をお願いしたい。

○福岡委員

去年 12 月、東京の全国フォーラムにて、キリバスを通して気候変動を地球規模で子どもたちがふかんに捉えるとして授業したものを事例として、大曲南中学校の島田校長先生と一緒に発表した。これは反響が大きいものの、キリバスを紹介できる方が 1 人しかおらず、どう全国に波及させるかが課題だ。

そのときに提案したのは、学校の ALT の母国とつなぐ、又は青年海外協力隊として派遣されている教員の在籍校とつなぐことなどが想定され、今年度はキリバスを波及させ、パラオの小学校と大阪の小学校をつなぎ、この後事業を展開する予定だ。

○木口座長

事業を更に波及させるという意味でつながることはすばらしいと思ったが、事務局ではそのことに関して意見はあるか。

○事務局

環境教育については、優れた取組がいろいろと行われている。学校現場だけだと難しいため、福岡委員の力を借り、SDGs に関する講師派遣事業を 10 校に実施している。昨年はおもひあなたが校長先生や首長だったらとして立場を変え、自分が主体的にどのような行動ができるのかについて考えるといった講義を各学校や大学に実施していただいた。こういった事業を今後も周知し、各学校で使ってもらいたい。

その他、ESD などは学校での扱い方が分からないという声もある。先ほど、事務局から環境教育基本方針の改定にて、現場の負担を軽減しながら効果的な支援ツールを検討しているという説明をしたが、今年度の環境省の事業として、3 分ほどの学校現場や社会教育での優良事例を募集し、環境教育・ESD 実践動画 100 選として選定予定だ。11 月に優良事例を公表し、動画についてはウェブサイトに掲載していくとのことで、公表になったら各学校現場や市町村に周知し、環境教育について理解していただきたい。

○木口座長

負担軽減のために人材を活用していくことが非常に重要と思う。エコマイスターを学校現場で活用する取組としては具体的にどのようなものがあるか。

○事務局

環境の達人という事業があり、学校にエコマイスターを活用していただけるように周知等をしている。

○木口座長

それが学校現場での負担軽減につながっているイメージでよろしいか。

○事務局

エコマイスターを定期的に活用いただいている学校もあり、我々が実施する出前講座等もある。数としてはもっと実施した方がいいと感じている。

○木口座長

具体的にエコマイスターとして活動されている伊藤委員からご意見をお願いしたい。

○伊藤委員

私も大曲南中学校にて食品ロスの講座をしている。毎年継続しており、教員が一生懸命に取り組むと子どもも興味を持っていき、そのような学校は子どもの知識が豊富で、取組への意欲も感じられる。

今年度開催される ECO コンについて、自分の頑張りを披露する機会は大切に、やる気につながることから、そのような機会があればいいと思う。

学校現場の負担を減らすという意味で、動画は子どもが興味を持って見る良いツールの一つだと思う。

食品ロスの動画について、秋田県の食品ロスはおにぎり 1 個分が毎日捨てられているという説明で、おにぎりを女の子が投げているシーンがあったが、子どもが食べ物を投げるのを見て違和感を覚えた。捨てられていることについて別の表現があったのではないか。

○事務局

今後注意したい。

○木口座長

県がエコマイスターの活躍の場を提供していることについて、現場としては活動しやすい状況という理解でよろしいか。

○伊藤委員

私の肩書はエコマイスターだが、県や秋田市の温暖化防止活動推進員として活動しており、事務局と連携しながら学校などで活動している。自分が新しい情報を欲しいときは、事務局に尋ね、講座の内容を充実させている。温暖化防止活動センターは疑問に答え、活動しやすくなっている。

○木口座長

秋田市から離れていくと活動の場を見つけにくいという話を少し聞いたことがあったが、秋田市では活発に活動されていると認識した。

資料に関し、特に炭素中立型経済社会の人材育成として、社員教育・社会教育について、東部ガスでの取組やご意見をお願いしたい。

○八百屋委員

教育現場の苦労や工夫と連携の重要性について改めて感じたところだ。

当社としてはエネルギーを扱っていく上で、国全体や日本ガス協会等の大きなところからの情報での教育が多く、個別の環境対策について目が届かない部分があると感じている。

今回の取組で、ECO コンを大学生や高校生まで広げていく話があったが、研究を発表できる場を作ることと、成果を連携や情報発信として、私もエコフェスに参加したが、あのような場での発表の機会があれば、関わった学生の意欲が継承されていくと感じる。

○事務局

ECO コンについては委託しているが、進捗状況を随時動画に撮っており、アイデアを使っただけのよう整理していきたいと考えている。

○木口座長

エコフェスでは集まって交流しているものの、活動している人たちがお互いに連携し合うまでにはつながっていないと感じる。その1つの取組として大学間で連携しているが、大学生と企業などの連携があれば学びがより深まると思う。エコフェスはそのようになってくれば良いと思う。

(5) その他

○小笠原委員

環境教育等促進法の現状に、家庭、学校、職場に啓発等を行っているところあり、県事業は国と一致していないかもしれないが、県の取組で家庭を意識している部分としては、例えばエコフェスに親子で参加し、こんなものがあった、楽しかったなど、勉強になったと思ってくれることだと思ふ。その他、学校や職場であったことが家庭で話題になることが、家庭での環境教育や環境学習につながっていると理解している。県の環境教育等に関わる事業を見ると、家庭での話題になるようなことが幾つかあると思ふ、家庭を意識している事業があれば教えていただきたい。

○事務局

美しい秋田の海での環境体験学習ツアーは、昨年度まで対象が小学3、4年生の子どもだけだった。昨年、官民対話にて子から親が学ぶことも多いという話もあり、子だけではなく親にもツアーに参加してもらい、会話をしながら学んだ方がいいということで、今年度から環境体験学習ツアーは親子で参加する形式とした。

夏の思い出づくりとなっているようなので、来年度以降も親子で参加してもらおう形で進めていきたい。

○小笠原委員

大学で活動して、小学生対象の環境教室を実施することがあるが、保護者同伴で実施の場合、イベントによっては保護者の方が多いことがある。小学1、2年生が参加するイベントでは、保護者同伴の方が運営側としても進行しやすかった。これからも保護者同伴でのイベントが実施されるならば、家庭での意識付けが強くなるとふだんから思っ

いた。

また、環境あきた県民フォーラムでは、エコ塗り絵というものを学校や幼稚園を対象に実施している。令和元年から始め、今年度は48園で736名が参加予定だ。幼稚園向けのものだが、保護者も環境について考えてもらう内容で、子どもに関わる家庭などで環境を意識してほしいと考えている。大学で行っているように、専門家を増やすことも大事だが、あわせて、ふだんの生活を少し意識してもらう第一歩としていただきたいという思いもある。

#### ○事務局

補足だが、環境体験学習ツアーは今年度から親にも参加していただく形式としたが、環境教育を進める方法の参考として、このイベントについて教員の見学を受け入れると周知したところ、参加者がいなかった。来年度以降、教員にも現場で見てください、方法等について理解していただきたく、是非ご参加いただきたい。

#### ○小笠原委員

小学校の教員も忙しく、例えば、雰囲気や内容が伝わる動画であれば様々な用途で使えるものと思う。

#### ○福岡委員

年間を通してSDGsの授業なども実施しているが、最後に2つ紹介させていただきたい。今秋田県は洋上風力が全国から注目されているが、デンマーク本社の洋上風力会社から声をかけていただき、SDGsの14海の生物を守ると7のエネルギーについてコラボした事業を実施している。ネイチャーポジティブに関し、世界目標の30by30の達成を目指して、日本では事例はないが、イギリスや台湾では、エネルギー施設を建設しながら海中の支柱にカキの養殖をしたり、サンゴを植樹して魚礁を作ったりというポジティブな活動を実施している。

SDGsの授業をしたところ、子どもが将来を描きやすいエネルギー問題だけではなく、生物にも寄与できるという感想をいただくことがあり、全県域で行って、SDGsと絡めながら紹介していければいいと思うし、環境省の100選の動画に応募しているので選ばれたら紹介させていただきたい。

もう1つ、私は全国地球温暖化防止活動推進センターの法人の理事もしているが、今年度、気候変動教育の研究会が立ち上がっている。先ほどのキリバスの派生として、パラオと大阪の小学校をつなぐ事業をこの研究会のテーマとしている。北海道から沖縄までの100校ほどの小学校から大学の教員がみんなで意見を出し合って進めている。またご紹介させていただきたい。

#### ○渡辺委員

小笠原委員から家庭というお話があった。生涯学習・社会教育サイドにも、家庭と地域のつながりを大切にする「学校・家庭・地域連携総合推進事業」がある。学校現場は多忙なため、地域人材を活用しようとする事業である。その中に放課後子ども教室とい

うものがあり、県内のほぼすべての市町村で行われている。放課後児童クラブの保育とは異なり、放課後の児童生徒に学びを提供するという事業をしている。そのような場にエコマイスターや環境教育のネタを提供していただければ、題材に困っている放課後子ども教室にとって救いの手になると思い、情報提供させていただいた。

○木口座長

エコマイスターの活用も含め、事務局から意見はあるか。

○事務局

放課後子ども教室に展開するという案がなく、そのような場でも家庭に広げさせていただけるのであれば、前向きに検討する。

○木口座長

エコマイスターの活用は人材育成や活用にもつながっており、広がりが出ているので、実現についてご検討いただきたい。

○古井委員

私も環境教育に長く携わっており、今でも広がりがあがるが、人によると思う。例えば、島田先生は昔から頑張られ、校長先生になっても活躍しているが、そのような教員がいる学校は非常に熱心だ。県の立場からすれば、小中学校で、環境学習をテーマにした一定の時間を取っていただきたい。そこには人材や力などで支障があり、国も支援すると言っているが、NPO や地域にて、学校の授業以外でも広まっていくようであればいいと思っており、引き続きご意見をいただければありがたい。

(以上)